

認知症の症状とケアの流れ（認知症ケアパス）

★認知症は少しずつ進行し、症状が変化していきます。症状や行動は状況によって異なりますので、家族や周りの人は認知症をよく理解してご本人の様子にあわせた対応をしていきましょう。

症状の進行段階	軽度認知障害(MCI) ～ 初期		中期	後期	
本人の様子 (見られる症状や行動の例)	認知症の疑い ・物忘れはあるが、金銭管理や買い物、書類作成等を含め、日常生活は自立している。	認知症を有するが日常生活は自立 ・約束が思い出せず、物事が覚えにくい。 ・「物を盗まれた」などのトラブルが増える。 ・買い物や事務、金銭管理等にミスがみられるが、日常生活はほぼ自立している。	誰かの見守りがあれば日常生活は自立 ・服薬管理ができない。 ・電話の応対や訪問者の対応などが1人では難しい。 ・失敗が増えるが、指摘すると怒りだすことがある。	日常生活に手助け・介護が必要 ・着替えや食事、トイレ等がうまくできない。 ・場所や日時がわからなくなる。 ・徘徊や妄想が多くなる。 ・興奮しやすくなる。	常に介護が必要 ・ほぼ寝たきりで表情が乏しく、意思の疎通が難しい。 ・飲み込みが悪くなり、食事に介助が必要。 ・家族の顔や関係がわからない。
本人、家族や周りの人の心構え	<ul style="list-style-type: none"> ・かかりつけの医師や専門病院などの医療機関の診察を受けましょう。（早期発見・早期対応が大切） ※受診や介護サービスにつながらない、ご本人の症状・対応に困っているなどの場合は、「認知症初期集中支援チーム」（P.3）の訪問支援を利用しましょう。 ・ご本人、ご家族だけで抱え込まず、高齢者の総合相談窓口「地域包括支援センター」（P.3）などの専門機関に相談しましょう。 ・認知症に関する正しい知識・理解を深め、必要な情報を集めましょう。（「認知症サポーター養成講座」（P.12 一覧表①）の受講など） ・仕事と介護の両立をしていくための制度を知りましょう。（P.11） 				
認知症の方を支えるサービス等	認知症や要介護状態にならない、悪化させないための予防	運動、頭の体操などによる介護予防教室に参加 特技や趣味を生かし地域の活動に参加 ・はすびい元気体操への参加 ・サークル ボランティア活動への参加 ・老人福祉センターを利用する 施設に通って軽い体操やリハビリを行うほか、入浴、食事などの介護サービスを利用する(P.12一覧表⑥ 介護保険サービス)			
	医療・看護	・かかりつけの医師(日常の健康管理、症状の相談等) ・認知症の専門医療機関(P.4②③ 認知症の検査・診断、相談) ・かかりつけ歯科医(日常の口腔ケア、必要に応じて訪問) ・かかりつけ薬局(服薬管理の相談、必要に応じて訪問) 自宅で医療・看護サービスを受ける(訪問診療・訪問看護 相談窓口: P.3 ◎地域包括支援センター)			
	在宅介護	・自宅で入浴、食事などの支援を受ける(P.12一覧表⑥ 介護保険サービス) ・通いや泊まりのサービスを利用する(P.12一覧表⑥ 介護保険サービス)			
	生活支援・家族支援等	・家事、庭仕事などをお願いする(P.12 一覧⑧⑫) ・介護に関する電話相談(P.3 ◎地域包括支援センター ◎認知症の人と家族の会 埼玉県支部 TEL048-814-1210 月・火・水・金・土 10:00～15:00) ・認知症の人を介護する家族のつどいに参加する(P.10) ・民生委員やボランティアによる見守り(P.12 一覧表⑦) ・所在不明となる可能性がある場合: 地域での見守りのお願いをする、所在不明となった方の発見のための事業を活用する(P.12一覧表③④) ・認知症カフェに参加する(P.10)			
	住まい	見守りサービスなどがある住宅に住む (ケアハウス、サービス付き高齢者向け住宅、住居型有料老人ホーム 等)		介護を受けられる住宅に住む (特別養護老人ホーム・介護付有料老人ホーム 等) ・家庭的な環境で介護を受けながら共同生活を送る(認知症対応型共同生活介護《グループホーム》)	